

2. 事業の概要

(1) 平成 28 年度の事業内容

① 大学院拡充計画の推進・教育の充実

(A) 平成 28 年 9 月、大学院医療科学研究科に名古屋サテライトキャンパスを設置しました。このキャンパスでは、高度な知識と技能を備えた上級の医療情報技術者を目指す社会人を対象にして、月 1～2 回の土・日曜日に座学とワークショップを組み合わせた講義と演習を行います。場所も名古屋市中区栄での開講とアクセスが良く、在職しながら修士号を取得しやすい環境を整備しています。

また、平成 29 年 2 月には、名古屋サテライトキャンパスの設置を記念して公開セミナーを開催しました。名古屋サテライトキャンパスにおいて教鞭を執られる講師陣に「2025 年問題と医療情報の活用ーヘルスデータ活用のエキスパートを育てる新たな大学院ー」と題し、団塊の世代がすべて後期高齢者となる 2025 年問題において、医療情報学が果たすべき役割について解説をしていただきました。

(B) 東京サテライトコース（放射線治療学コース／医用画像情報管理学コース）は社会人診療放射線技師の方を対象とした授業を行っております。平成 28 年度では、放射線治療学分野で新たに「医学物理士」認定試験の受験支援を目的とした演習を開設しました。

(C) 本学では、平成 25 年に臨床心理コースを開設し、平成 30 年には「公認心理師（及び臨床心理士）」養成教育に対応するために臨床心理分野の大学院の設置を検討しています。その準備として、学部生や大学院生の実習の場とする「鈴鹿医療科学大学附属こころの相談センター」と「鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック」を設置しました（※）。

（※）「こころの相談センター」は平成 29 年 4 月 3 日開業、「こころのクリニック」は平成 29 年 5 月 11 日開院

② 鈴鹿医療科学大学創立 25 周年記念行事の実施

平成 3 年、日本で最初の「医療系 4 年制大学」として開学した本学は、平成 28 年 4 月に創立 25 周年を迎えました。開学当初は 2 学部 4 学科でしたが、現在は 4 学部 9 学科 11 専攻分野及び大学院 2 研究科を有する「医療・福祉の総合大学」に発展しました。

平成 28 年度では、開学してからの四半世紀を振り返り、今後の更なる成長を期して下記のような式典や行事を挙行了しました。

創立 25 周年記念式典、記念講演会、記念祝賀会

平成 28 年 5 月 6 日 四日市都ホテルにおいて、鈴鹿医療科学大学創立 25 周年記念式典を挙行し、来賓、各界の関係者の方々のご臨席を賜り、教職員を含め約 330 名が祝福に集いました。

式典に引き続き、第二部では日本再生医療学会理事長・大阪大学大学院医学系研究科長の澤芳樹教授をお迎えし、「再生医療の現状と未来」と題して記念講演会が行われました。

記念講演会終了後、第三部の祝賀会では、本学との提携校である中国天津中医薬大学の張伯礼学長より高木理事長に記念品が贈呈されました。会場では伊勢神宮内宮おかげ横丁「神恩太鼓」や津市指定無形文化財「獅子舞」、本学学生のよさこいチーム「FEEDOM」が創立 25 周年を祝い、盛会のうちに幕を閉じました。



(記念式典での挨拶 高木純一理事長)



(祝賀会での挨拶 豊田長康学長)

創立25周年記念演奏会

アメリカから日本人指揮者高原守先生率いる「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル」をお招きし、7月16日(土)白子キャンパス講堂にて記念演奏会を開催しました。

これは、本学が開学以来お世話になっている地域の皆さまへの感謝の気持ちを込めるとともに、地域の文化、芸術の発展に少しでも寄与させていただくために「創立25周年記念演奏会」をワンコインコンサートとして催したものです。本演奏会は、ヴァイオリニスト鈴木健史様と鈴鹿市出身の和太鼓奏者である的場凜様を特別にお迎えして、クラシックの名曲の数々と、アンサンブルと和太鼓のコラボレーションなど、一流の演奏家が奏でる素晴らしい音色に聴き入るものとなりました。

また、本学吹奏楽部の学生と卒業生がアンサンブルに参加させていただき、よさこいサークル「颯～FREEDOM」の演舞が会場を盛り上げ、客席の皆さまからたくさんの拍手をいただきました。フィナーレでは手拍子も沸き起こり、会場が一体となった素晴らしい記念演奏会となりました。



(ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの演奏)



(本学学生が参加しての演奏)

創立25周年記念公開講演会

創立25周年を記念して、学科ごとにテーマを決めて下記のような公開講演会を開催しました。

担当学科	講演会名
放射線技術科学科	画像診断装置と触れ合ってみよう
医療栄養学科・管理栄養コース・臨床検査コース	三重県の食と健康、健康と臨床検査
医療福祉学科・医療福祉コース	介護保険事業を経営する社会福祉法人の経営課題～人的資源のマネジメントを主体に～
医療福祉学科・臨床心理コース	アナと雪の女王における「もう一人の私」とその変容
理学療法学科	リハビリテーションロボットの未来
鍼灸学科	東洋医学で癒しの1日！ 2016 Part I、東洋医学で癒しの1日！ 2016 PartII
臨床工学科	確率にまつわるよもやま話
医用情報工学科	IoTってなんだろう～インターネットがもたらす未来社会～
薬学科	がんの予防と痛み止め薬・アスピリン
看護学科	地域に求められる看護

③ 受験料の変更について

センター利用方式（前期・中期・後期）の受験料を、平成 28 年度実施の入試から値下げしました。

改正後の受験料（センター利用方式）			改正前の受験料（センター利用方式）	
1 学科	15,000 円	←	1 学科	20,000 円
2 学科	20,000 円	←	2 学科	30,000 円
3 学科以上一律	25,000 円	←	3 学科以上一律	40,000 円

④ 学生支援の強化

(A) 障がいがあることを理由にして、授業や学校行事への参加など学習機会が失われることのないように修学上の支援を行うことを目的とした「障がい学生支援委員会」を起ち上げ、学生課と白子学生・就職課に「障がい学生支援係」を設置しました。

(B) 本学では、ボランティアセンター運営委員会を設置し、学生によるボランティア活動のコーディネート体制を強化しました。また、ボランティアセンターでは、大学に隣接する特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」との連携による活動も多く、「夏祭り」「敬老週間」「開設 1 周年記念パーティー」「芋煮会」などの行事に学生ボランティアが参加しています。

⑤ 産学官連携研究推進

(A) 本学では、平成 27 年に鈴鹿市と鈴鹿ロボケアセンター株式会社で鈴鹿市福祉ロボット推進事業に関する協定を締結しております。この協定は、福祉用ロボットを利用した産業推進や人材育成を目的とするもので、サイバーダイナミクス株式会社が開発したロボットスーツ HAL を利用した授業カリキュラムの導入や、利用方法に関する研究などを実施しており、普及が見込まれる最先端の技術を学ぶことができるようになりました。

(B) 平成 27 年に、鈴鹿市と日清オイリオグループ株式会社で「健康寿命を伸ばそう！鈴鹿市！運動と食生活そして地域の連携！」をテーマに産学官連携協力に関する協定を締結しています。平成 28 年度では、①献立メニュー（鈴鹿産の地場食材を使い、中鎖脂肪酸を含む食用油を使ったもの）やチェックシートの提供による食生活習慣の改善・定着 ②多様な食材摂取による栄養状態の改善 に関する研究を行いました。

また、同協定に関する取組として、「さあ、きつともつと 鈴鹿。健康レシピコンテスト」を実施しました。このコンテストでは、鈴鹿市の地場食材と中鎖脂肪酸を含んだ食用油を使ったレシピを一般募集し、地域の健康を創るアイデアレシピが多数寄せられました。

(C) 有限会社湯元榊原館と本学が協働し、平成 29 年 3 月から「鍼灸・薬膳宿泊プラン」を開始しました。これは湯元榊原館（三重県津市榊原町）の温泉の効能と、本学の鍼灸治療及び薬膳料理を組み合わせたプランで、地方創生による地域の活性化を目指す株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研のコーディネートにより実現したものです。本学は、東海三県の大学で唯一の鍼灸学科を有するとともに、鍼灸学科と医療栄養学科の教員が中心となり設立した「日本薬膳学会」を賛助しており、これらの知見を活かしつつ、健康寿命の延伸や地域の観光客誘致への貢献を目指しています。

⑥ その他

平成 27 年に開設された特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」（社会福祉法人サムス会）にて、本学の学生の実習が行われるようになりました。また、学生のボランティア活動や卒業生の活躍の場として、今後も更なる連携が期待されています。

(2) 施設設備に関すること

<建物>

- 千代崎キャンパスの施設では、J A R T 記念館エレベーター更新工事や研究厚生棟・実験実習棟空調更新工事、研究厚生棟 1・2 階トイレ改修工事を実施しました。
また、「こころの相談センター」改修工事（旧 SUMST クラブ棟）及び「こころのクリニック」新築工事を実施しました。
- 白子キャンパスでは、2 号館改修工事（2 階防音壁設置・床改修工事、2・3 階トイレ改修工事）を実施しました。

<教育研究用機器備品>

- 放射線科学技術科の骨密度測定アプリケーション一式や、理学療法学科のハンディ 3D スキャナー一式、薬学部薬学科の画像解析装置（Amersham Imager）など、大学全体で 49 百万円の機器備品を購入しました。

<管理用機器備品>

- 千代崎キャンパスの電話交換機一式や食堂の什器類、こころの相談センター及びこころのクリニックの備品など、大学全体で 16 百万円の機器備品を購入しました。

(3) 研究等について

- 平成 28 年度の受託・共同研究は、18 件 18,815 千円でした。
- 平成 28 年度の科学研究費補助金（間接経費を含む）は、56 件 54,613 千円（うち本学の教員が研究代表者となっている研究は 35 件 48,230 千円）でした。